

食害、育苗、樹木生育阻害要因の検討

14年度植栽木の食害状況調査

塘路 64 地区 (地拵え植林)

樹 種 名	調査対象数 (本)	食害数 (本)	食害率 (%)	食害部位 (本)			備 考
				頂芽	枝	幹	
イタヤカエデ	20 (3)	16	94.1	16	4	0	複数部位
エンジュ	18 (2)	6	37.5	0	5	1	樹高 150 ㍎以上
ケヤマハンノキ	40	7	17.5	0	1	6	同上
ミズナラ	40	24	60.0	16	11	1	複数部位
ヤチダモ	30	16	53.3	11	6	0	複数部位
5 種 小 計	148 (5)	69	48.3	-	-	-	

達古武 24 地区 (地拵え実施地区)

イタヤカエデ	29 (2)	18	66.7	18	0	0	
エゾヤマザクラ	3 (1)	2	100	2	0	0	枯れ死 1
エンジュ	25 (4)	6	28.6	0	1	5	樹高 150 ㍎以上
ケヤマハンノキ	6	1	16.7	1	0	0	
ハルニレ	14 (1)	13	100.0	12	0	0	
ミズナラ	94	57	60.6	57	0	0	
ヤチダモ	1	1	100.0	1	0	0	自然木
7 種 小 計	172 (8)	98	59.8	-	-	-	

達古武 24 地区 (地拵え未実施・原野地区)

イタヤカエデ	18 (6)	10	83.3				
エンジュ	1	1	100.0	0	0	1	
ケヤマハンノキ	23 (9)	9	64.3	8	0	1	
ドロノキ	8	5	62.5	4	2	2	複数部位
ミズナラ	33 (2)	13	41.9	13	0	0	
5 種 小 計	83 (17)	38	57.6	-	-	-	
全地区合計	403 (30)	205	55.0	-	-	-	

* ()内の数字は枯死など食害の判別が不明の数。食害率から除外した。

* この調査は平成 14 年 5 月に行った植栽木を対象に平成 14 年 12 月までの無積雪期間の食害状況を調べた。

<調査結果について>

* 全体の食害率は約 55%となった。

* 樹高が 150 ㍎を超える苗を植栽した塘路 64 地区でエンジュ(37.5%)、ケヤマハンノキ(17.5%)と食害が少なく、食害部位でも頂芽の食害は全くなかった。(ただしエンジュの一部で、幹、枝などで強い食害が見られた。)

* 食害は樹種によって違いのある傾向があり、今回はデータが不足しているもののミズナラとイタヤカエデで高い値を示した。

14 年度植栽木の活着状況調査

塘路 64 地区（地拵え植林地）

樹 種 名	調査対象数 (本)	活着数 (本)	非活着数 (本)	活着率 (%)	全高 (cm)	地際径 (cm)	備 考
イタヤカエデ	20	17	3	85.0	100	1.11	
エンジュ	18 (1)	14	3	82.4	180	1.59	樹高 150 ㇰ以上
ケヤマハンノキ	40	39	1	97.5	247	2.34	同上
ミズナラ	40	40	0	100.0	113	1.18	
ヤチダモ	30 (1)	28	1	96.6	117	1.23	
5 種 小 計	148 (2)	138	8	94.5	-	-	

達古武 24 地区（地拵え実施地区）

イタヤカエデ	29	27	2	93.1	64	0.87	
エゾヤマザクラ	3	2	1	66.7	-	-	
エンジュ	25 (2)	20	3	87.0	167	2.17	樹高 150 ㇰ以上
ケヤマハンノキ	6	6	0	100.0	85	1.17	
ハルニレ	14 (2)	12	0	100.0	46	0.62	
ミズナラ	94	94	0	100.0	66	0.72	
ヤチダモ	1	1	0	100.0	44	0.92	自然木
7 種 小 計	172 (4)	162	6	96.4	-	-	

達古武 24 地区（地拵え未実施・原野地区）

イタヤカエデ	18	11	7	61.0	-	-	
エンジュ	1	0	1	0	-	-	
ケヤマハンノキ	23	13	10	56.5	-	-	
ドロノキ	8	8	0	100.0	-	-	
ミズナラ	33	31	2	93.9	-	-	
5 種 小 計	83	63	20	75.9	-	-	
全地区合計	403(6)	363	34	91.4	-	-	

* ()内は活着と非活着が判断出来なかった不明樹。活着率から除外した。

* この調査は平成 14 年 5 月に行った植栽木を対象に平成 14 年 12 月までの無積雪期間の活着状況を調べた。

* 塘路 64 地区は経験者、達古武 24 地区はボランティアで植栽を実施した。

< 調査結果について >

* 全体の活着率は約 91%であった。

* 樹種ではミズナラが高い活着率(98%)で、イタヤカヤデ(80%)、エンジュ(85%)、ケヤマハンノキ(84%)などとなった。この中で、地拵えしないで草野中に植栽した達古武 24 地区のケヤマハンノキは 56.5%の活着率となった。光を必要とする樹種の傾向が明確になった。

* 塘路 64 地区の植栽場所は北と西に開いた尾根筋でこれまでシラカンバの植栽が行われているが、気象、食害、土壌性状等の要因と見られる影響でほぼ枯れ、ササ原となっている。今回の調査ではやや活着率が悪い傾向が見られたが、地拵えを行った他地区との明確な違いは見られなかった。